

# 熊本地域医療

当院HPは  
こちらから



# センターだより

院長 杉田裕樹

令和6年(2024年)5月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222  
〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号 <https://krmc.city.kumamoto.med.or.jp>

2024 5 月号 通算228号

## 熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。  
そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。

## contents

わかりやすい診療部紹介～糖尿病代謝内科～	P1
わかりやすい部門紹介～臨床工学部～	P2
退任挨拶	P2
副院長昇任挨拶	P3
ステップアップ研修報告	P3
新任挨拶	P4

## わかりやすい 診療部紹介 Ver.3

## ～糖尿病代謝内科～

糖尿病代謝内科部長 さかき だ ころりん  
榎田 光倫



前回に引き続き今回も5月号を担当させていただきます糖尿病代謝内科です。今回は担当が笹原でないため驚かれた方も多くおられるのではないのでしょうか。笹原は、今年(2024年)4月より副院長へ昇任され、榎田も部長へ昇任いただきました。この度、笹原新副院長からのご高配もあり、糖尿病代謝内科の紹介を榎田が担当させていただきます。

はじめに、少し自己紹介いたします。平成19年に熊本大学を卒業し父の背中を追って熊本大学代謝内科に入局いたしました。熊本地域医療センターは、大学院生の時に出勤協力医で勤務していましたが、なによりも父が癌を患った際に大変お世話になった病院であり、10年以上経った今、勤務させていただけることにこの上ない深い縁を感じております。

さて、当科の紹介に入らせていただきます。基本的には糖尿病と甲状腺の内科系疾患(バセドウ病や橋本病)を中心に診療しています。甲状腺腫瘍に関しては甲状腺エコーなどで診断後、必要であれば穿刺細胞診や手術を外科に依頼しています。重症の急性代謝障害や甲状腺以外の各種内分泌疾患は、熊本大学病院糖尿病・代謝・内分泌内科や国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科と連携しなが

ら対応しています。

特に、糖尿病に関しては、ここ最近様々な種類の治療薬が登場し、同時に血糖管理をサポートする機器の開発もあり、よりよい血糖コントロールを目指すことが可能となってきています。特に、初めて糖尿病と診断いただいた患者さんあるいは血糖コントロールがうまくいかない患者さんなどいらっしゃいましたら、当科へのご紹介を検討いただけますと幸いです。当院の特徴として、放射線診断や消化器・呼吸器系悪性腫瘍の専門医が充実しており、血糖コントロール不良で紹介いただいた患者からこれまでに多くの初期悪性腫瘍を診断し早期の外科治療等を行っております。もちろん、糖尿病の治療には、かかりつけ医の先生方との緊密な連携が重要と考えておりますので、今後とも病診連携および地域への先生方への逆紹介を積極的に進め、患者さんおひとりひとりに合わせた「切れ目のない診療」を心掛けていきます。

昨年度からは二人診療体制となっております。基本的には、月曜日、水曜日、木曜日は笹原副院長、火曜日、金曜日は榎田が担当しておりますので、当科を初めてご紹介いただく際には、いずれの曜日にご紹介いただいても構いません。今後とも、「顔の見える病診連携」を継続させ、これまで以上に患者さんのやり取りを強化できればと思いますので、患者さんに関する相談やご紹介のやり取りなど今後ともよろしく願いいたします。

## わかりやすい 部門紹介

## ～臨床工学部～

臨床工学技士主任 おおた さや 太田 沙綾



臨床工学技士（CE）は医師の指示のもとに、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする医療機器の専門医療職種です。医療機器が何時でも安心して使用できるように保守・点検を行い、安全性の確保と有効性維持に努めています。また多職種の医

療技術者とともに、高度管理医療機器を用いた技術サポートの担い手としてチーム医療に貢献しています。

地域医療センターの臨床工学部は診療支援部に所属し、ME 機器管理室 3 名と手術室 2 名、計 5 名の臨床工学技士が在籍しています。ME 機器管理業務をベースに、HCU では血液浄化装置や人

工呼吸器等の操作や管理、手術室ではスコープオペレータとして患者様の手術や治療に携わっています。

血液浄化関連業務では血液透析をはじめ、持続緩徐式血液濾過透析、エンドトキシン吸着、血漿交換などの各種血液浄化療法に対応しており、ここ数年では難治性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注の件数が増えています。また、心臓カテーテル、ペースメーカ、睡眠時無呼吸症候群の検査や治療といった幅広い分野でチーム医療の一員として専門性を発揮しています。

臨床工学部の部門理念である「安全で確実な臨床工学技術を提供し、以って課せられた社会的使命を全うする」を掲げ、今後も高度化・複雑化していく医療機器とともに私たちもアップデートできるよう日々精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 退任挨拶

放射線科 こばやし なおき 小林 直樹



2021年10月から2年半、大変お世話になりました。放射線科の松川先生、矢村先生には多くのご指導をいただき、画像診断の力を伸ばすことができたと感じております。在任期間中に放射線科専門医の資格を取得できたのも2人の指導医のご指導の賜物です。

また、各科の先生方には、様々な面で大変お世話になりました。特に当直の際など、先生方のご協力やご助言があったからこそ、困難な状況にもどうにか対応

し、職務を全うすることができたと思っております。心より感謝しております。

医師会の先生方からは、様々な画像検査のご依頼をいただきましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。先生方からご紹介いただいた多種多様な症例は、非常に貴重な学びの機会でした。

4月からは熊本大学病院で勤務することとなります。熊本地域医療センターから近いということもあり、引き続きお世話になることもあるかもしれませんが、その際は何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様におかれましては、今後とも変わらぬご健康とご活躍を心よりお祈りしております。

緩和ケア科研修医 はやかわ かなみ 早川 香奈美

半年間というとても短い期間でしたが、大変お世話になりました。

私が緩和ケアを学びたいと思ったきっかけは、地域中核病院やへき地診療所での経験からきています。どこに住んでいても適切な医療が受けられるように、住み慣れた地域で最後まで穏やかに過ごせるように、そのために自分にできることとして、緩和ケアについてしっかり学びたいと思い、地域医療センター緩和ケア科でお世話になりました。人生の最終段階を迎えられる患者様、ご家族と向き合うなかで、日々

悩み自分の無力感を感じることもありましたが、安部先生、緩和ケア病棟のスタッフをはじめ、緩和ケアに関わるたくさんの方々を支えられて、色々な経験を積むことができました。

4月からは熊本市から車で1時間ほどの山間部にあります山都町包括医療センターそよう病院という常勤医師4名の病院で総合診療医として勤務させていただきます。ここでの経験を活かし、地域に還元できるよう日々精進していきたいと思っております。

## 副院長昇任挨拶

副院長 兼 臨床研究部長 ささはら たかゆき 笹原 誉之



この度2024年4月1日付で副院長 兼 臨床研究部長を拝命いたしました糖尿病代謝内科の笹原です。

私は平成16（2004）年4月1日に当院代謝内科にDr. 上原昌哉の後任として赴任し、今年が20年目になります。

着任当初から熊本市医師会各部の総会・懇親会などのいわゆる「飲み会」には積極的に参加し、多くの先生方と「顔の見える連携診療」を心掛けてきました。医局の雑用係（医師会会員の先生方や医師会事務局、当院他職種などとのパイプ役）である医局長も平成23（2011）年4月より務め、こちらも13年目となります。

こんな中この度、柏原副院長の定年退職に伴い副院長を任じられました。もとより Dr. 柏原は「副院長」が板についていました（本人は退任の挨拶に「童顔で困った」とありましたが…）。私はといえば見かけこそ老獪かもしれませんが、何せ根が軽いキャラの為、しばらくは違和感が否めないと思いますが暖かく見守ってください。基本これまでの私の路線を維持し医師会病院の「潤滑油」として当院の為に頑張ります。

糖尿病代謝内科部長は Dr. 榎田光倫に引き継ぎ、これまで通り二人三脚で糖尿病代謝内科のみならず、地域医療センターが杉田院長の指揮のもと最高の機能を発揮すべく精進する所存です。今後もこれまで通り、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

### 令和5年度 第6回 ステップアップ研修報告

## 事例から学ぶ緩和ケア・意思決定支援

～様々なイベントを乗り越えて退院支援に至った経緯を元に意思決定について考える～

緩和ケア認定看護師 みやもと あき 宮本 亜紀



3月28日、第6回目のステップアップ研修を行いました。事例を振り返りながら早期からの緩和ケア、意思決定支援や看護・ケアの本質について考える機会となりました。緩和ケアは必要なときに早期実施されるもので、

病期の早い段階から治療と身体の苦痛緩和を同時に行うと位置づけられています。そして意思決定支援を行うためには患者さんの望み・ニーズを知る必要があります。患者さんが望むケアの本質について、近年傾聴を超えた「対話」が重視されており、医療者には患者さんと対話できる力が求め

られています。人は自分のことを理解できる範囲でしか他者のことを理解できないと言われていきます。患者さんとの対話の前に、自らの価値観や信条を理解し、自分との対話をしているでしょうか。研修の中で皆さんに考えていただいた質問ですが、「ご自身のもしものときのことを誰かに伝えたことや話し合ったことはありますか？」改めてご自身の伝えたいことは何か、どんな答えがあるのか、考えてもらえたらと思います。そして看護は感情労働であり、患者さんに寄り添う中で苦しくなることもあるかと思えます。そんな時は誰かに話を聴いてもらうことも大切なことです。今年度も現場のニーズに応じた研修を企画しています。皆様からのご要望及び多数のご参加をお待ちしています。

# 新任挨拶

循環器内科部長 <sup>ほんだ つよし</sup> 本多 剛

2024年4月から循環器内科に赴任しました本多剛と申します。平成12年に山口大学を卒業し、循環器内科に入局しました。熊本地域医療センター、熊本赤十字病院、新別府病院での勤務を経て、大学院で臨床研究、基礎研究を行いました。その後は県立延岡病院、熊本医療センター、再春荘病院、くまもと森都総合病院、熊本赤十字病院に勤務しました。

熊本赤十字病院では Heart team のメンバーとし

て、エコー医の立場から患者さんにとって何が最善の治療になるのかを議論して参りました。また患者さんや家族に安心して検査や治療が受けて頂けるように、わかりやすい説明を心掛けてきました。

当院では心不全治療が中心になるかと思いますが、医師会の先生方や近隣の病院と連携しまして、地域の医療に貢献できればと思います。御指導、御鞭撻のほど宜しく御願ひ申し上げます。

消化器外科部長 <sup>みま こうすけ</sup> 美馬 浩介

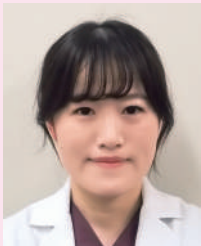


令和6年4月より、外科で勤務させて頂いております美馬浩介と申します。平成17年に熊本大学医学部を卒業し、平成19年に熊本大学大学院消化器外科学講座に入局しました。熊本大学病院消化器外科および関連施設で修練を積み、九州大学への国内留学、米国への

海外留学を経験して参りました。

消化器疾患、肝臓・胆道・膵臓領域の良性、悪性疾患に対する外科治療を中心に行っております。一人一人の患者さんの病態や背景に合わせて最適な治療を提供し、熊本地域医療センターへ貢献できるよう努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほど宜しく御願ひ致します。

消化器内科 <sup>か いつみ</sup> 何 逸美



2024年4月より赴任いたしました消化器内科の何逸美と申します。私は2021年に佐賀大学を卒業し、国立病院機構熊本医療センターで2年間初期臨床研修を行いました。その後、熊本大学の消化器内科医局に入局し、1年間大学病院に勤務したのち、地域医療センターで働かせていただくこととなりました。

地域医療センターは、地域の中核病院として患者

様に寄り添い、向き合う医療を実践されている素晴らしい病院だと感じております。私は医師としての経験が浅くまだまだ未熟者ではありますが、そのような当院の地域医療に少しでも貢献できればと思っております。同じ消化器内科の先生方や他科の先生、それぞれの部署のスタッフの方々に助けていただきながら、なんとか日々の診療をこなしている状態ではありますが、患者様の治療に還元できるようにこれからも毎日頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく御願ひします。

## 熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2024年5月27日(月) 19:00~20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加

オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／[kumamotochiiki@gmail.com](mailto:kumamotochiiki@gmail.com) (※1) まで

メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

(※1)メール作成用QRコード



### ①症例報告

『FreeStyle リブレを用いて血糖管理を実施した症例』

糖尿病代謝内科 榎田 光倫 医師

### ②特別講演

『潰瘍性大腸炎の治療』

CC54：便通異常(下痢、便秘)

消化器内科 黒岩 朋裕 医師

 熊本地域医療センター

☎096-363-3311 (代表)

■紹介や転院調整はこちら  
※地域医療連携室師長が対応いたします。

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y 新年度、いろんな面で話題になる大谷翔平選手。当院のフレッシュな新任挨拶、昇任挨拶をご覧いただき、患者さんのご紹介をよろしくお願い致します。地域医療センター勉強会もよろしくお願い致します。

K 気がつけば、我が家の部屋着は体操服。中学高校のジャージ素材がしっかりして動きやすくさらに長持ち。息子が入らなくなったジャージは、まだまだ着れると私にお上がり。実家の母もそうだったと懐かしく思います。(我が家だけかな?)

H なんと今年は20代最後の年。心機一転、最高の30代を迎えることができるよう、公私ともに今年は人一倍頑張ることを決意しました!